

令和元年度 農業後継者特別支援事業

事業主体名 AGRI 倶楽部指宿

1 目的

指宿地域における豆類(えんどう類・そらまめ)は、露地栽培が中心であり、例年12月～2月に強い降霜による被害で、生産が不安定なことが問題となっており、霜害軽減対策が求められている。昨年、南薩地域振興局農政普及課指宿市十二町駐在で「不織布の水平張りを活用した霜害軽減対策」の展示試験が行われたが、不織布の展張時間がかかり、産地での普及に至っていない。そこで、不織布の展張方法を改善し、従来より短時間で実施できる霜害軽減対策を検討する。

2 実施状況

(1) 不織布の水平張りの装置化検討

予備実証ほを設置し、不織布の簡易な展張方法を検討した。検討した結果、通常より大きな規格の不織布を利用し、5a程度を一斉に展張する方法に決定した。



【従来の展張方法】

(2) 作業性及び霜害軽減効果の確認

クラブ員ほ場2カ所(スナップえんどう1カ所、そらまめ1カ所)に実証ほを設置し、作業性及び被害軽減効果の確認を行った。

作業時間を計測したところ、従来の「通路毎に不織布を展張する方法」が2時間11分、今回の方法では17分であり、約2時間の作業時間短縮が可能になった。(10aあたり/作業人数2名)



【今回の展張方法】

令和2年1月1日に降霜被害があり、被害程度を調査した。慣行区では幼莢の黒変や花落ちが見られたが、実証区では莢の異常は少なかった。霜害後の莢数は、慣行区に対し、実証区では約5倍の莢が残っており、霜害軽減効果があることが確認できた。



【霜害時の様子(左:慣行区 右:実証区)】

(3) 地域への普及

活動終了後には活動の結果や今後に向けた改善点等について検討を行った。

また、本活動について、令和元年度南薩地区青年農業者会議にて活動紹介を行った。



【検討会の様子】

3 今後の課題、取り組み

作業人数1名で取り組み可能な展張方法の検討

不織布の設置時間の短縮